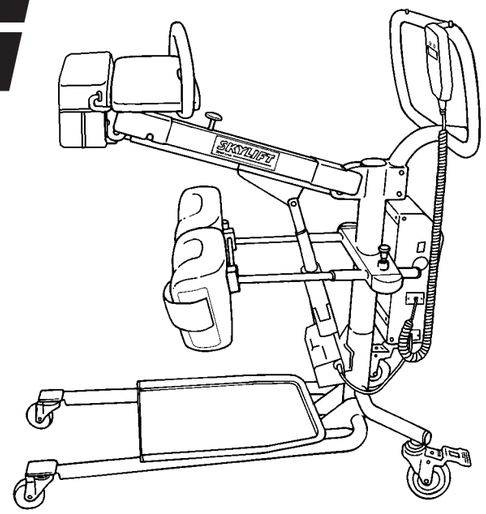
SKYLIFT

スカイリフト SL-2009U

取扱説明書



この度はスカイリフト SL-2009U をお買い求めいただき、ありがとうございます。スカイリフトは、介護される方の状況に合わせて適切にご使用いただく必要がありますので、この「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、のちのちのため「保証書」とともに大切に保存してください。

弊社ホームページにて本製品の動画がご覧になれます。 http://www.nasent.net/ ナーセント 検索

目　次

① 使用目的 / 特長 …… P. 1
② 各部の名称と説明 …… P. 2〜3
③ スリングの名称と説明 …… P. 3
④ 安全に使用するための注意事項 …… P. 4〜7
⑤ リフトの組み立て方法 …… P. 7〜8
⑥ スリングシート（吊り具）について …… P. 8
　1. エアスリング …… P. 9
　2. サポートスリング …… P.10
⑦ リフトの使用手順 …… P.11
　1. エアスリングを使用した場合 …… P.11〜12
　2. サポートスリングを使用した場合 …… P.13
⑧ バッテリーの取り扱いについて …… P.14
　1. バッテリーについて …… P.14
　2. バッテリー残量の確認 …… P.14
　3. 充電のしかた …… P.15
　4. バッテリー交換のしかた …… P.15
⑨ 故障かな？と思ったら …… P.16
⑩ 日常のお手入れ …… P.17
⑪ 長期保管について …… P.17
⑫ アフターサービスについて …… P.17
⑬ 仕様 …… P.18

アイ・ソネックス株式会社

お客様メモ　お問い合せやサービスを依頼されるときのために、必ず記入しておいてください。

品　番	スカイリフト SL-2009U		
お買い上げ 年　月　日	年　月　日	お買い上げ 店　名	TEL.　（　）

製造元 アイ・ソネックス株式会社
本社／〒702-8004　岡山県岡山市中区江並100-7
TEL：086-200-1550　FAX：086-200-1553
ホームページ　http://www.nasent.net/

1　使用目的／特長

使用目的

◆スカイリフトSL-2009U は、自力で立つことができない方をベッドから車いすに移したいときや車いすから洋式便器（ポータブルトイレ）やベッドに移したいときなど、様々な移乗動作を介助し、介護力を軽減するための床走行型電動介護リフトです。

◆スカイリフトは、立つ姿勢をとらせることが可能ですので、便器などへの乗せ換えやおむつ交換などの排泄介護の労力の軽減が図れます。自尊心の尊重と自立を目指した排泄ケアをお手伝いします。

◆立位姿勢による移乗の機会の増加によって、介護を受ける方の残された心身機能の維持回復を促進させ、より活動的な生活を実現できるよう支援します。

◆ご使用にあたって
- この取扱説明書や本体のパネル表示の内容が十分に理解でき、各部の操作や介護動作ができる人が、ご使用ください。
- 介護を受ける方の症状・身体機能、介護する方の体力や機器への適応能力などを専門の医師や理学療法士、作業療法士などに相談してください。

特　長

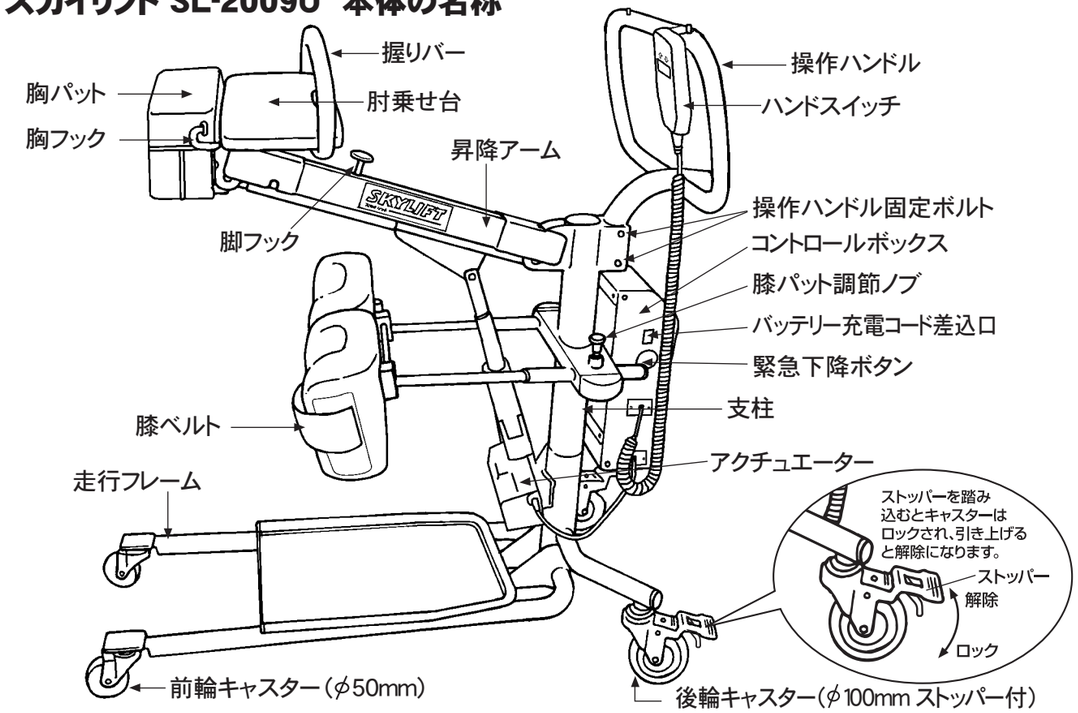
◆カンタン操作
- 昇降アームの上昇下降はハンドスイッチの操作だけで作動します。
- バッテリー内蔵型ですので電源のない場所でも使用できます。
- エアスリングを使えば、スリングの装着に手間取りません。
- 小回りのきくコンパクトな設計ですので、狭い場所での移動もスムーズに行えます。

◆使う人にやさしい親切設計
- 操作を中断してから20分経つと、主電源が自動的に切れます。スイッチの切り忘れによるバッテリーの消耗を防ぎます。
- バッテリー残量表示によって、充電状況や充電時期が一目でわかります。
- バッテリー残量が50%以下になると、ハンドスイッチを押すたびにブザーで充電のお知らせをします。
- 高頻度に上昇下降を繰り返した場合、アクチュエーターを保護するためブザーが鳴ります。さらに使用すると一時的に作動が停止しますが、約５分間待機すると復帰します。

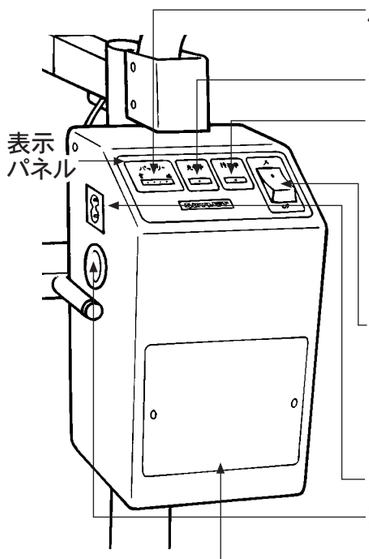
◆安全性に対する配慮
- ハンドスイッチの故障などで、リフトが上昇した状態で止まった場合、緊急下降ボタンを押せば安全に下降できます。
- 胸パットと身体の挟み込みを防止するため、圧力によって作動する挟み込み防止装置が、胸パット下端に内蔵されています。

2　各部の名称と説明

スカイリフト SL-2009U　本体の名称



コントロールボックスの説明



バッテリー　バッテリーの充電状況を「空～満」までの4 段階で表示します。黄色まで減少したら、充電時期です。

充電中　充電中は緑色が点滅します。充電が完了すれば、緑色が点灯し続けます。

待機中　休みなく連続してスカイリフトを作動させた場合、モーターを保護するため「ピッーピッーピッー」という断続音で作動停止の予告をします。さらに1～2往復程度続けて作動を繰り返すと、ハンドスイッチを押しても上昇ができなくなり、待機中の表示が点灯します。約5分間待機すると点灯が消え、再び操作を開始することができます。ご利用者が立ち上がった状態のまま作動しなくなった場合は、あわてずハンドスイッチの下降ボタンを押して下降させてください。

入 - 切　電源スイッチです。スイッチを入れた直後はすぐには作動しません。約３秒間待って、パネル表示が全点灯から正しい表示に変わった後、操作を開始してください。使い終わったら、必ず電源スイッチを「切」に入れてください。電源スイッチを入れたままにしておいても自動的に電源が切れますが、切り忘れはバッテリーの寿命を縮める原因になりますのでご注意ください。

充電口　充電コードを差し込み、家庭用コンセントから充電します。

緊急下降ボタン　ハンドスイッチの故障などで上昇した状態で止まった場合、緊急下降ボタンを押せば安全に下降できます。

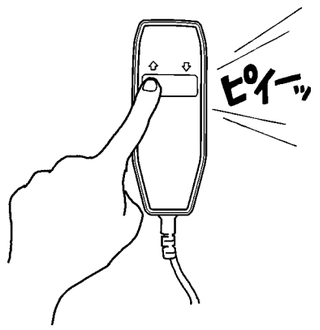
バッテリーケース　バッテリーが内蔵されています。ケースのフタを外せばバッテリーが簡単に取り外せます。

2　各部の名称と説明

ハンドスイッチの説明

●昇降アームの上昇下降をコントロールします。ボタンを押すと作動し、離すと停止します。

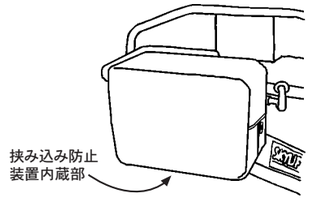
●バッテリー残量が50%以下になると、ハンドスイッチの昇降ボタンを押すたびに「ピィー」というブザー音が鳴り、充電時期をお知らせしますので、できるだけ早く充電してください。



胸パッドの説明

●昇降アームが過度に下降し、胸パットの下端で介護を受けている方の太ももや腹部に損傷を負わせる危険性を避けるため、胸パット下端に「挟み込み防止装置」が内蔵されています。

●「挟み込み防止装置」は、一定以上の圧迫が加わると作動し、ハンドスイッチを押しつづけても、昇降アームの下降が自動的に停止します。

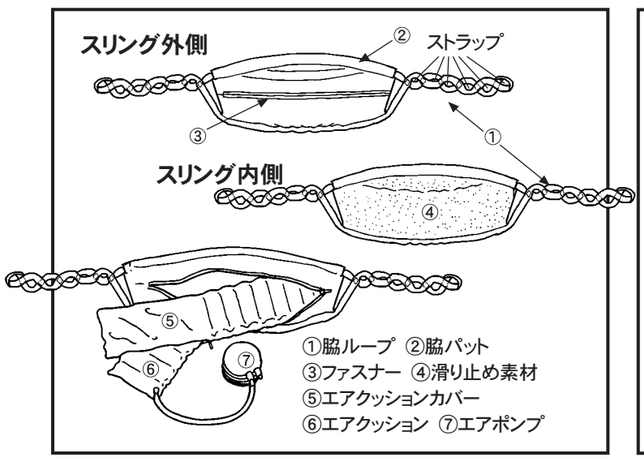


①スカイリフトの使用中に、胸パットの下端を手で触れたり、硬いものがあたらないよう注意してください。介護を受ける方が吊り上がったままハンドスイッチを押しても下降できなくなる恐れがあります。

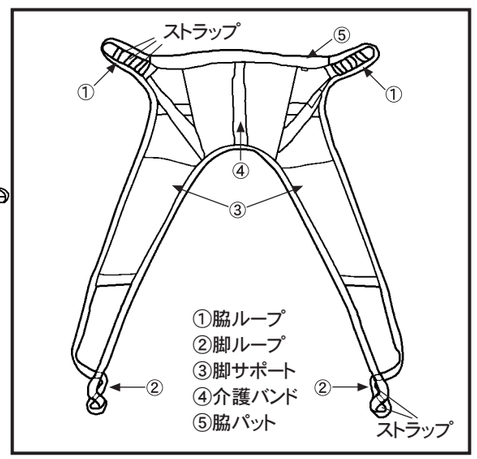
②介護を受けている方が吊り上がった状態のまま、挟み込み防止装置が作動した場合は、緊急下降ボタンを押して昇降アームを下降させてください。

3　スリングの名称と説明

エアスリング　AS-201



サポートスリング　SS-202



4　安全に使用するための注意事項

■必ずご使用の前にこの「安全に使用するための注意事項」をよくお読みいただき、正しくお使いください。

■ここに表示した注意事項は

製品を安全にお使いいただくため、またあなたや他の人々への危害・損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、誤った取り扱いをすることによって生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさや切迫の程度に応じて「警告」と「注意」の二つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
絵表示についての詳しい説明は、下記のとおりです。内容をよく理解してから、本文をお読みください。

⚠警告（けいこく）	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が重傷を負う可能性が想定されている内容を示しています。
⚠注意（ちゅうい）	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容を示しています。

※取扱説明書をお読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
※レンタルなどで貸し出す場合も、この取扱説明書と共に貸し出してください。説明書をよく読んでから使用するように指導してください。

⚠警　告

■取扱説明書や表示パネルに書かれた内容が理解できない人には、使用させないでください。

■子どものいたずらに注意してください。

●お子様には触らせないでください。また、思わぬいたずらに十分注意してください。
転倒によるけがや事故の原因になります。

■体重が100kgを超える人には、使用しないでください。

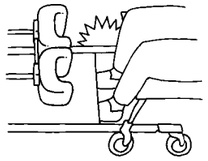
●この製品の耐荷重は、100kgです。体重が100kgを超える人には、絶対使用しないでください。

■身長が145cm未満の人や175cm以上の人には、使用しないでください。

●この製品の適応身長は、145cm～175cm未満の範囲となっていますので、適応身長外の人には、絶対に使用しないでください。

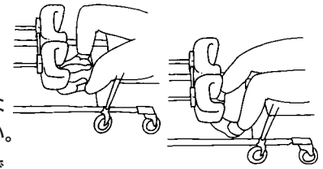
⚠ 警　告

■足を乗せ降ろしするときは、足台に足をはさまないよう注意してください。



●スカイリフトをご使用になるとき、足台と床の間に足をはさまないよう十分注意してください。

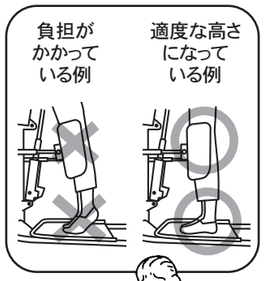
■介護を受ける方の症状に合わせて、慎重にご使用ください。



●両下肢関節の変形などのためにリフトの足台に両足の足底が着かない人や、足台から両方の一部が出てしまう人には使用しないでください。

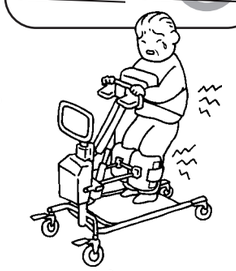
●両下肢関節の変形などのために、膝パットが膝にあたる位置に調節できない人には使用しないでください。

■昇降アームは、必ず身長や下肢の状態に合わせて適度な高さで止めてください。



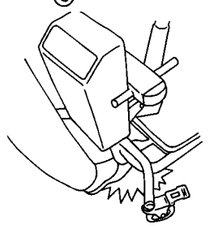
●ハンドスイッチの↑印を押して介護を受ける方を立ち上がらせる時は、介護を受ける人の踵が浮き上がったり、膝が過度に伸展することがないよう必ず適度な高さで昇降アームを止めてください。身長の低い方や膝関節が屈曲している方の場合、昇降アームを最高位置まで上昇させると、膝関節に無理な力がかかってけがをする危険があります。

■介護を受ける人の姿勢や表情に注意してください。



●リフトを操作し、介護を受ける人を立ち上がらせたり座らせたりするときは、必ず介護を受ける人の姿勢や表情をよく観察し、ずり落ちそうになったり、痛みや苦痛、不安を訴えたりするときは、即座にリフトの使用を中止してください。

■移動するときは、足元に注意してください。



●リフトを手前に引いたとき、支柱下部や走行フレームと床の間に足をはさまれたり、キャスターに足を踏まれたりしないよう、十分注意してください。けがをする恐れがあります。特に靴を履かないで操作するときは注意してください。

■人を吊り上げた状態での移動は、正しい方法で、慎重に行ってください。

●介護を受ける方をリフトに乗せた状態で、段差の乗り越えや斜面地での移動を行わないでください。転倒してけがをする恐れがあります。

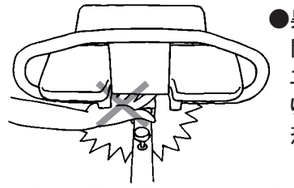
●急激な横移動はしないでください。不安定になり転倒しけがをする恐れがあります。

●トイレや浴室内などの排水溝周辺の段差や水切り勾配がある個所の通過や移動を行わないでください。

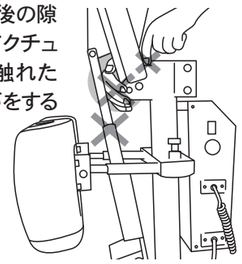
⚠ 警　告

■可動部のすきまに、手や指を入れないよう注意してください。

●肘乗せ台と昇降アームとの間ではさまれ、けがをする恐れがあります。



●昇降アーム回転軸の前後の隙間に手指を入れたり、アクチュエーターの伸縮部分に触れたりしないでください。けがをする恐れがあります。



■操作ハンドル固定ボルトや支柱ボルトは、確実に固定してください。

●操作ハンドル固定ボルトや支柱ボルトが緩んだままでの使用は、絶対しないでください。移動時の不安定や転倒による事故の原因になる危険性があります。

■エアスリングを装着するときは、必ず身体と胸パットにすきまが生じないよう、ループをしっかり引っ張ってフックをかけてください。

●エアスリングのループがゆるんだ状態で胸パットと身体が密着していない場合は、身体がずり落ちたり、あごが胸パットで締め付けられることがあります。介護を受ける方に苦痛を与えるばかりでなく、大変危険です。

■エアスリングやサポートスリングのループは、確実にフックをかけてください。

●スリングを装着したときは、スリングのループが胸フックや脚フックに確実にかかっていることを確認してから、昇降アームを作動させてください。ループが外れた状態で作動させると、介護を受ける方がスリングから脱落して、けがをする恐れがあります。

■スカイリフトを使用後、スリングが当たっていた身体部分の皮膚に変化がないかどうか確認してください。

●スカイリフトを使用した後は、胸や腰、太ももの下などスリングの当たっていた身体部分の皮膚に変化がないかどうか確認してください。赤くなったままもとに戻らないときは、直ちに医師の診察を受けてください。

■膝パットが介護される方の両膝にぴったり合うよう、以下のように膝パットを調節した後、必ず膝ベルトを止めてください。

●前後の距離は膝パット調節ノブで、また上下の高さはネジで調節してください。

●介護を受ける方の膝が膝パットから離れた状態で、スカイリフトを上昇下降させると、膝パットから下肢が離れけがをする恐れがあります。

■ハンドスイッチの操作は、必ず介護者が行ってください。

●ハンドスイッチの操作は、介護を受ける方がしないでください。事故の原因になります。

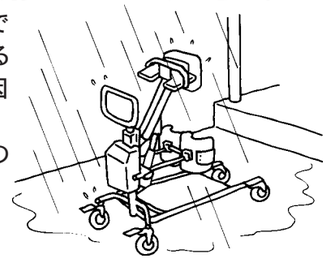
4　安全に使用するための注意事項

⚠ 注　意

■湿気の著しい場所や雨の降る屋外では使用しないでください。

●スカイリフトは、湿気の著しい場所や常時水を使用する場所で使用したり、保管したりしないでください。また、雨にさらされる屋外での使用や保管もしないでください。漏電や故障の原因になります。

●本体に水などの液体をかけないでください。ショートや感電の原因になります。



■ハンドスイッチの取扱に注意してください。

●ハンドスイッチを落としたり、コードを強く引っ張ったり、はさんだりしないでください。 ショートして感電する恐れがあります。

●ハンドスイッチのフックをリフト本体にかけた状態で無理に引っ張ったり、曲げたりしないでください。破損の原因になります。

■故障や破損したときは、使用しないでください。

●使用中に故障や破損したときは、直ちに使用を中止し、販売店または弊社へ修理を依頼してください。

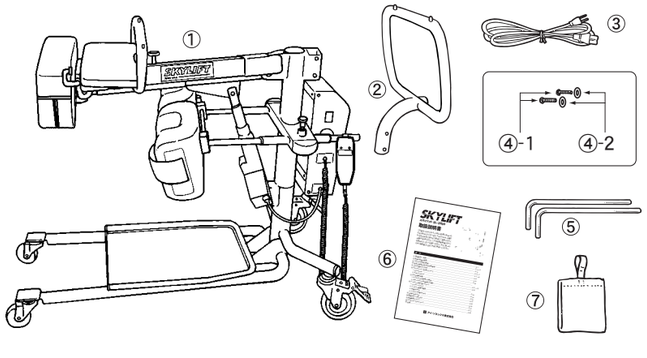
■製品の分解や改造はしないでください。

●修理技術者以外の方は、ハンドスイッチやアクチュエーター、コントロールボックスなどを分解したり、修理や改造は絶対にしないでください。異常作動して、けがをする恐れがあります。

5　組み立て方法

1. 梱包部分の確認

■この製品は組み立て式になっています。梱包を開いた後、下記の製品を確認してください。

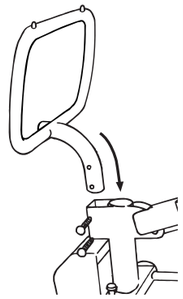


①スカイリフト本体 ……1台
②操作ハンドル ……1個
③電源コード ……1本
④-1 ネジ（六角穴付ボタンボルト）……2本
④-2 スプリングワッシャー ……2個
⑤六角棒スパナ
（対辺 6mm）……1本
（対辺 5mm）……1本
⑥取扱説明書……1冊
⑦部品袋

※⑤六角棒スパナは、操作ハンドルを本体に差し込んで固定する時（対辺 6mm）や、 膝パットの高さ調整時（対辺 5mm）に使用します。
※電源コードは、充電するときに使用します。

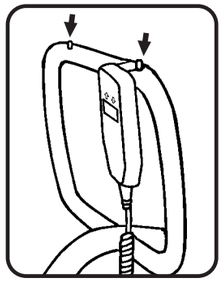
5　組み立て方法

①操作ハンドルを、支柱のハンドル受けに差し込んでください。
②ネジ２本を支柱のハンドル受けの穴に差し、六角棒スパナでしっかり固定してください。



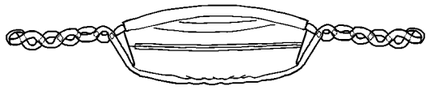
③ハンドスイッチは、必ず操作ハンドルにかけてください。

●操作ハンドル上部に2ヶ所ある小さな突起の間にハンドスイッチをかけてください。

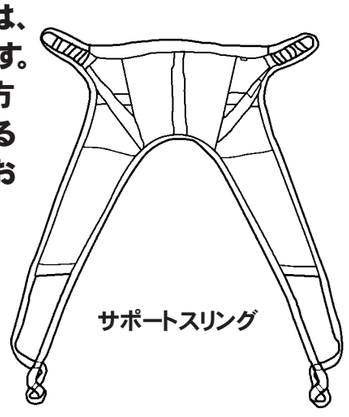


6　スリングシート（吊り具）について

■スカイリフトに使用できる専用スリングシートは、エアスリングとサポートスリングの2タイプです。スリングシートの選択にあたっては、介護する方の機器取扱の理解や操作能力、介護を受ける方の症状や身体状況、体格などに合わせてお選びください。



エアスリング



サポートスリング

⚠ 警告

●スカイリフト専用スリングシート以外のスリングシートは、 絶対に使用しないでください。不適合によるけがや、リフトから脱落する危険性があります。

●スリングシートの選択にあたっては、専門の医師や理学療法士、作業療法士などに必ず相談してください。

●スリングシートは消耗品です。長期間の使用で、スリングシートのループの摩耗や糸のほつれ、生地の破れがないかどうか必ず確認してください。摩耗や損傷した状態で使用していますと、スリングシートが破れて落下し、けがをする恐れがあります。早めに新しいスリングと交換してください。

●スリングシートを鋭利な金属片で摩耗したり、とがったもので引っ掛けたりしないでください。スリングが破れて落下し、けがをする恐れがあります。

1. エアスリング　AS-201

●介護を受ける方がスカイリフトで立ち上がった状態で、洋式便器への移乗やおむつ交換などの排泄ケアのために、衣服を着脱する必要があるときなどに使用するスリングシートです。
●座ったときに首を自分で保つことができる人、ベッドや車いすの座位が比較的安定している人に適しています。
●身体への圧迫感を少なくするために、エアクッションが内蔵されています。介護される方の体型や症状によって、エアポンプでエアクッションの空気圧を調整してください。

《適応サイズ》
Mサイズ：胴回りが65㎝～ 90㎝までの方
Lサイズ：胴回りが85㎝～110㎝までの方

《耐荷重》
M／L：100㎏未満

警告

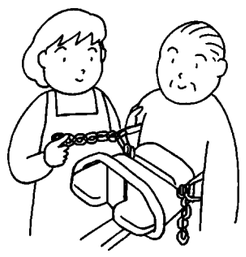
●エアスリングを装着するときは、介護を受ける方の胴回りにしっかり密着するよう、脇ループを強く引っ張り胸フックにかけてください。ゆるくかけた場合、身体が抜け落ちる危険性があります。また、顎が胸パットに乗るくらいまで身体がずり落ちると、胸が圧迫されて苦痛をまねく恐れがあります。

2. エアスリングの装着方法

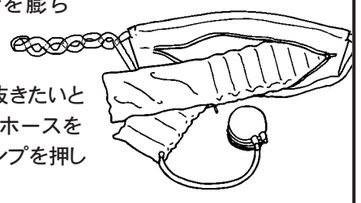
①エアスリングの内側（滑り止め素材）を、介護を受ける方の身体側にむけて、スリングの脇パットがウエストよりやや下になるよう身体にあて、背中の中心とスリングの中心があわさるようにセットしてください。

②スカイリフトの胸パットが、介護を受ける人のみぞおちにピッタリとあたるまでスカイリフトを近寄せてください。

③エアスリングの左右の脇ループをそれぞれ、胸パットの左右の胸フックに、しっかりとかけてください。このとき、身体と胸パットに隙間ができないよう、できるだけきつめにかけてください。



④エアスリングに内蔵されているエアクッションの圧調整は、付属のエアポンプをご使用ください。
エアクッションを膨らませるときはポンプの青い口に、空気を抜きたいときは赤い口にホースを差し込み、ポンプを押してください。



3. サポートスリング　SS-202

●サポートスリングは、介護を受ける方の体重を主に臀部で受けるタイプの吊り具です。体重が重い方や腹部肥満の方、下肢関節に重度の変形拘縮のある方などが、エアスリングを使用した場合に、臀部がずり落ちたり、立ち上がる姿勢をとることができないときなどに、ご使用ください。
●便器に移乗する場合には、あらかじめズボンや下着を外してから、サポートスリングを装着してください。
●介護を受ける方が立つ姿勢をとることができない場合には、中腰姿勢や座位姿勢など負担のかからない姿勢でご使用ください。

《適応サイズ》Mサイズ：胴回りが65㎝～ 90㎝までの方
Lサイズ：胴回りが85㎝～110㎝までの方

《耐荷重》M／L：100㎏未満

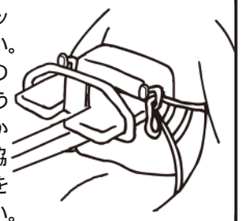
警告

●サポートスリングを装着するときは、介護を受ける方の仙骨部がかくれるまでカバーしていることを必ず確認してください。その位置までカバーしていないと、吊り上げたとき身体が抜け落ちる危険があります。また、脇や股の圧迫感が強く苦痛をまねきます。

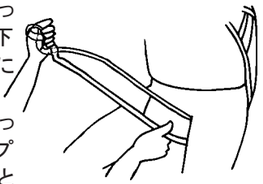
4. サポートスリングの装着方法

①サポートスリングの介護用バンドを介護を受ける方の背中の中央に合わせ、仙骨をカバーするところまで差し込んでください。このとき、介護者は介護を受ける方の上半身を図のように支えながら前傾させ、もう一方の手でスリングを差し込んでください。

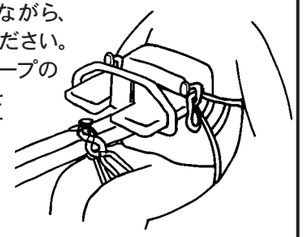
②左右の脇ループを脇の下に廻し、胸パットの左右の胸フックにしっかりかけてください。このとき、介護を受ける方の胸が胸パットにぴったり合うように脇ループをきつめにかけてください。また左右の脇ループのストラップの位置を同じ長さに合わせてください。



③脚サポートを、介護を受ける方のお尻や太ももを確実におおうようにひっぱりながら、太ももの下にくぐらせ、内股の間に抜き出してください。
反対側も同じ要領で行った後、左右の脚ループの長さが同じであることを確認してください。



④左右の脚ループを、ねじれないようにまた、しわができないように注意しながら、脚フックにかけてください。このとき左右の脚ループのストラップの位置を同じ長さに合わせてください。



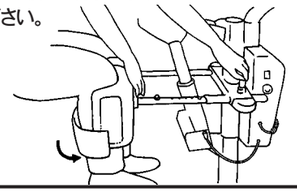
1. エアスリングを使用した場合のリフト使用手順

●ベッドから車いすへの移乗方法

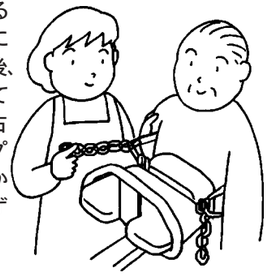
①介護を受ける方を、ベッドの端に座った状態にしてください。このとき、両足が着く高さにベッドの高さを調整してください。

②スカイリフトの胸パットを介護を受ける方のみぞおちの高さを目安に合わせてからリフトを近寄せ、足台に両足を乗せてください。そののち、後輪キャスターのストッパーをロックしてください。

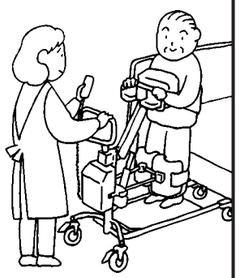
③膝パット調整ノブを片手で上に引き上げながら、他方の手で介護を受ける方の両膝に膝パットの内側が当たる位置まで調整し、ノブで固定してください。それから膝ベルトを膝の後ろにまわしマジックでしっかり固定してください。



④胸パットが介護を受ける方の胸より下の高さに当たるよう調整した後、エアスリングを装着してください。そのとき左右の脇ループのストラップが胸フックにしっかりかかっていることを、必ず確認してください。



⑤ハンドスイッチの↑印を押しながら、介護を受ける方を、立ち上がらせます。このとき介護者は、痛みや不快感の訴えがないか注意しながら、介護を受ける人の踵が浮き上がったり、膝が過度に伸展することがない様、必ず適度な高さで昇降アームを止めてください。



⑥介護を受ける方が、安定した状態で立ち上がっていることを確認したのち、後輪キャスターのストッパーを解除し、操作ハンドルを押してリフトを車いすまで移動をしてください。

⚠警告 身長の低い方や膝関節が屈曲している方の場合、昇降アームを最高位置まで上昇させないでください。膝関節に無理な力がかかってけがをする危険があります。

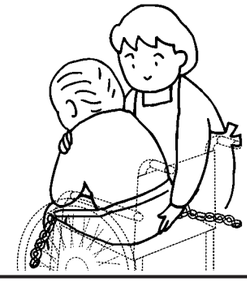
⚠警告 リフトを移動するとき、急に方向転換したり、横に移動しようとしないでください。リフトが転倒する危険があります。

⑦ブレーキをかけた車いすのステップをはね上げ、車いすの内側に前輪キャスターを差し込み、介護を受ける方が着座しやすい位置まで車いすを進めた後、ハンドスイッチの↓印を押しながら車椅子に着座させてください。このとき、後輪キャスターは、ロックしないでください。車いすに介護を受ける方の背中や膝裏がぶつかる恐れがあります。

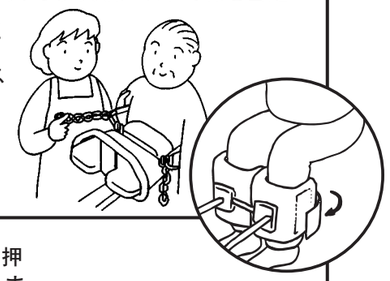
1. エアスリングを使用した場合のリフト使用手順

●車椅子から洋式トイレへの移乗方法

①エアスリングを、車いすに乗った介護を受ける方の背中から腰の下に差込んでください。このときエアスリングの中心を介護を受ける方の背中の中心に合わせてください。



②車いすにリフトを差し込み、足台に両足を乗せて後輪キャスターをロックします。膝ベルトで膝を固定したあと、エアスリングの脇ループを胸フックにかけ、エアスリングを装着してください。



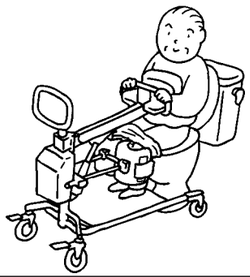
③ハンドスイッチの↑印を押しながら、介護を受ける方を、立ち上がらせます。このとき介護者は、痛みや不快感の訴えがないか注意しながら、介護を受ける人の踵が浮き上がったり、膝が過度に伸展することがない様、必ず適度な高さで昇降アームを止めてください。

④操作ハンドルを押しながら、トイレまで移動してください。このとき、急に方向転換したり、横に移動しようとしないでください。リフトが転倒する危険性があります。

⚠警告 身長の低い方や膝関節が屈曲している方の場合、昇降アームを最高位置まで上昇させないでください。膝関節に無理な力がかかってけがをする危険があります。

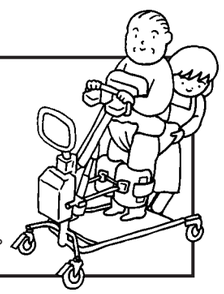
⑤トイレ内で立った姿勢のままズボンや下着を下ろしたのち、リフトの走行フレームが洋式便器の外側になるように近寄せ、便座に安定して座れる位置で止めてください。この時キャスターはロックしないでください。

⑥ハンドスイッチの↓印を押しながら、介護を受ける方を便座に着座させてください。排泄が終わったら再び立ち上がらせ、車いすやベッドまで移動してください。



●おむつの交換方法

●介護を受ける方がおむつを使用されている場合、リフトに立った姿勢のままで、おむつを交換することもできます。このときは、洋式トイレやプライバシーを保護できる場所へ移動して行ってください。
●介護者が介護を受ける方の後方に立ち、ズボンを膝まで下げ、おむつカバーを外してうしろからおむつを交換してください。
●おむつ交換が終わったら、立ったまま下着やズボンを引上げ、車いすやベッドへ移動してください。



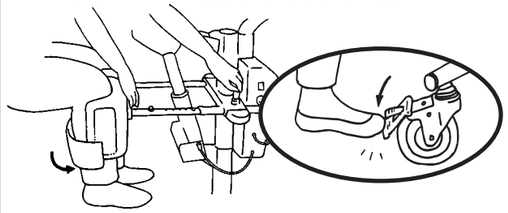
7 リフトの使用手順

1. サポートスリングを使用した場合のリフト使用手順

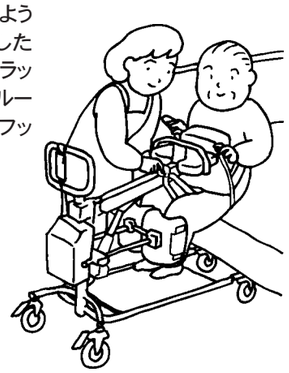
●ベッドから車いすへの移乗方法

①介護を受ける方をベッドの端に腰掛けた姿勢で座らせたのち、サポートスリングをP10.6-4-①の手順に従って装着してください。

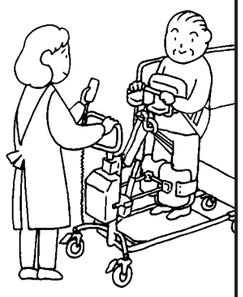
②膝パットを介護を受ける方の膝に合うよう調節し、膝ベルトで固定してください。そののち、スカイリフトの後輪ストッパーを踏んでロックしてください。



③胸パットが介護を受ける方の胸の下に合うようリフトの高さを調節したのち、脇ループのストラップを胸フックに、脚ループのストラップを脚フックにかけてください。

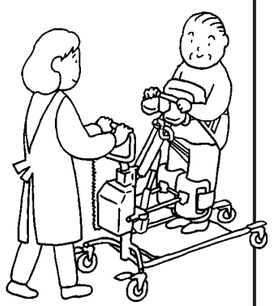


④ハンドスイッチの↑印を押しながら、介護を受ける方を臀部が浮き上がり移乗できる高さまで引き上げてください。このとき介護者は、痛みや不快感の訴えがないか注意しながら、介護を受ける人の踵が浮き上がったり、膝が過度に伸展することがない様、必ず適度な高さで昇降アームを止めてください。



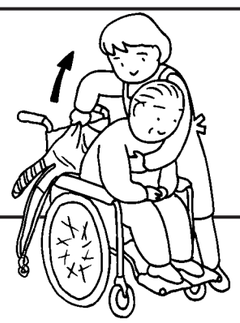
⚠警告 身長の低い方や膝関節が屈曲している方の場合、昇降アームを最高位置まで上昇させないでください。膝関節に無理な力がかかってけがをする危険があります。

⑤後輪キャスターのストッパーを解除し、操作ハンドルを持って車いすまで移動してください。このとき、リフトを急に方向転換したり横に移動させようとしないでください。リフトが転倒する危険があります。



⑥ブレーキをかけた車いすのステップをはね上げ、車いすの内側に前輪キャスターを差込み、ハンドスイッチの↓印を押しながら車椅子に深く着座させてください。このとき、リフトの後輪キャスターは、ロックしないでください。車いすに介護を受ける方の背中や膝裏がぶつかる恐れがあります。

⑦胸フックと脚フックからそれぞれループを取り外し、膝を持上げて脚サポートを引き抜いてください。そののち、介護を受ける方の上半身を片手で支えながら前傾させ、もう一方の手で背中側からスリングを引き抜いてください。



8 バッテリーの取り扱いについて

1. バッテリーについて

■バッテリーの寿命は、通常の使用では2～4年ですが、頻繁に使用される場合や周囲の温度が高い場合は、寿命が短くなります。
■長時間（24～36時間）充電しても動作時間が短い場合は、バッテリーの交換が必要です。販売店または弊社にご相談の上、新しいバッテリーに交換してください。
■バッテリーの種類…小型シール鉛蓄電池　12VDC／2.9Ah／2個
■バッテリーの参考型式…ES2.9-12（Yuasa）

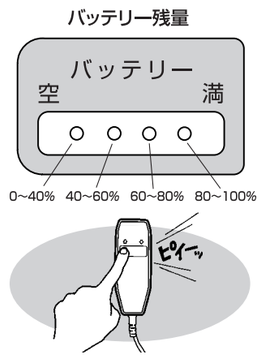
⚠警告

- **交換したバッテリーは、お早めに適切な方法で廃棄してください。家庭用のごみと一緒に捨てないでください。 廃棄する時は産業廃棄物の専門処理業者、 弊社または販売店などへご連絡ください。**
- **充電中の充電コードをキャスターで踏んだり、重いものではさんだりしないでください。充電コードが痛んで、焼損、漏電、火災、感電の恐れがあります。**
- **充電コードを接続したままで、スカイリフトを移動させないでください。充電コードをキャスターで踏む恐れがあります。**
- **電源プラグを抜くときは、コードを持って抜かないでください。ショートして感電する恐れがあります。 必ず電源プラグを持って、抜いてください。**
- **充電コードの電源プラグを、コンセントに差し込んだ状態でバッテリーの交換作業をしないでください。感電の恐れがあります。**

2. バッテリー残量の確認

■バッテリーの残量は、コントロールボックスにある表示パネルに表示されます。スカイリフトを使用する前には必ず確認し、不足の場合は充電してください。

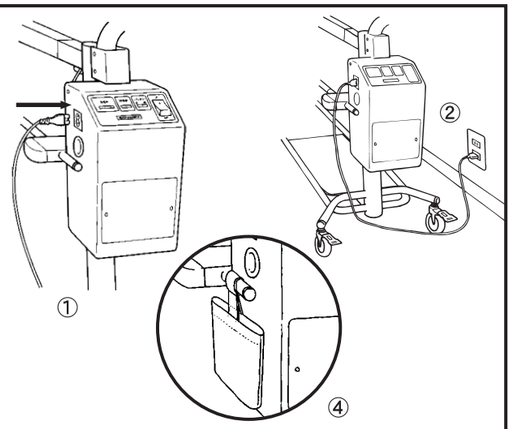
- バッテリー残量を確認する際は、電源スイッチを「入」にして確認してください。「入」にすると、3秒間は表示が全て点灯しますが、3秒後に正確な残量が表示されます。バッテリーの残量表示が黄色まで減少し、バッテリー残量が約50～40%を切った場合、ハンドスイッチの昇降スイッチを押すたびに、「ピィー」というブザー音が連続的に鳴って充電時期を知らせますので、すぐに充電してください。
- バッテリーを完全に使い切ってから充電する使い方を繰り返しますと、バッテリーの寿命が短くなりますので、こまめに充電を行ってください。
- 使用を止めてしばらく経つと自動的に電源スイッチが切れますが、バッテリーの消耗を防ぐために、使用しないときは必ず電源スイッチを切ってください。



8　バッテリーの取り扱いについて

3. 充電のしかた

①充電コードのプラグをコントロールボックスの充電口に差し込んでください。
②充電コードの電源プラグを、コンセントに差し込んでください。充電中のランプが点滅し、充電が開始されます。
③充電中のランプが、点滅から点灯に変わるまで、充電してください。通常充電容量が50%まで減少した場合の充電完了時間は約12時間です。
④充電コードを使用しないときは部品袋に入れて、図のようにスカイリフト本体にかけ、いつでも使用できるようにしてください。



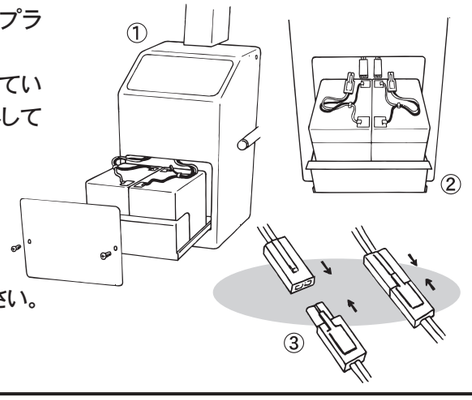
●充電中（充電中のランプが点滅している間）、電源スイッチを入れてハンドスイッチを操作するとスカイリフトを作動させることはできますが、バッテリーの寿命が短くなりますのでできるだけ避けてください。
●初めて使用する場合、バッテリーを新品と交換した場合、長期間使用しなかった場合、バッテリーを完全に使い切ってしまった場合などは、必ず長時間（24～36時間）充電してください。

4. バッテリーの交換のしかた

■バッテリーの交換については、下記の要領で行ってください。

⚠警告	充電コードの電源プラグを、コンセントに差し込んだ状態でバッテリー交換作業をしないでください。感電の恐れがあります。

①バッテリーケースのフタにとめている2ヶ所のネジをプラスドライバーで取り外し、フタをあけてください。
②バッテリーケースの中から、バッテリー2個を搭載しているスライドボックスを手前に引き出し、配線を取り外してください。
●配線は、コネクター部のストッパーを押し下げながら外してください。無理に引き抜くと断線する恐れがあります。
③新しいバッテリー２個のコネクター部を図のように配線し、バッテリーケース内に収納してください。
④バッテリーケースのフタを、元通りに取り付けてください。
⑤充電をしてください。（15ページ参照）



9　故障かな？と思ったら

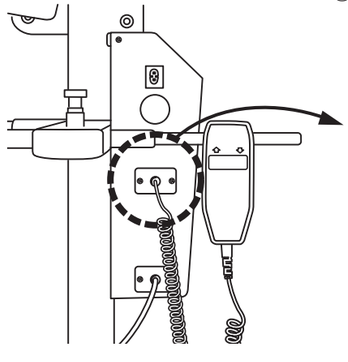
修理を依頼される前にもう一度ご確認ください。

症　状	チェック	対処方法	参照ページ
①ハンドスイッチを押しても動かない。（上昇、下降ともに）	電源が「入」になっていますか。	電源を「切」から「入」にしてください。	2
	バッテリーの残量が少なくなっていませんか。	充電してください。	15
	充電を行いましたか。	充電コードで24～36時間充電してください。	15
	バッテリーの耐用年数が過ぎていませんか。	バッテリーを交換してください。	14
②ハンドスイッチを押しても下降しない。	胸パットに何かが当たっていませんか。	胸パット下部に太ももや腹部以外の衣服やベルトなどが接触して動かない時は接触物を取り除いてください。	3
③操作ハンドルの操作ができない。	後輪キャスターがロックされていませんか。	後輪キャスターのロックを解除してください。	2
④リフトの移動ができない。	後輪キャスターがロックされていませんか。	後輪キャスターのロックを解除してください。	2

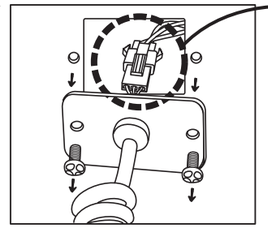
ハンドスイッチの取り外しについて

上記①②の症状が解決されずハンドスイッチが作動しないときには、まず販売店にご相談ください。
またハンドスイッチのみを修理することになった際には、以下の手順で本体より取り外しをしてください。

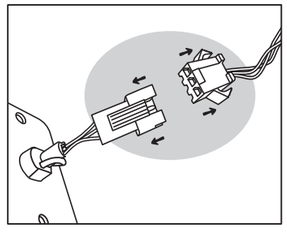
⚠警告	充電コードの電源プラグをコンセントに差し込んだ状態や、本体の電源スイッチを入れたままなどでのハンドスイッチの取り外し作業はしないでください。感電の恐れがあります。



①コントロールパネル左側面の中央にあるハンドスイッチのコード根元の2ヶ所のネジをプラスドライバーで取り外し、フタをあけてください。



②コントロールパネルの中から、配線を取り外してください。
●配線は、コネクター部のストッパーを押し下げながら外してください。無理に引き抜くと断線する恐れがあります。



※修理依頼以外でのハンドスイッチの取り外しはしないでください。

10 日常のお手入れ

⚠警告	●お手入れをするときは、電源プラグを抜いてください。感電の恐れがあります。 ●本体に水などの液体をかけないでください。ショートや感電の原因になります。

●リフト本体の清掃は、水で潤めた中性洗剤にひたした布をよく絞って拭いてから、乾いた布でふきとってください。

●お手入れはシンナー、ベンジン、ガソリン、アルコールなどで絶対にふかないでください。

11 長期保管について

■長期保管するときは、下記の点に注意してください。

1. 後輪キャスターを必ずロックしてください。
2. 長期間ご使用にならない場合も、3ケ月に1回は、8時間以上の充電をしてください。

12 アフターサービスについて

1. 保証書

このリフトには保証書を添付していますので、「販売店名・購入日」などが記入されているか、必ずお確かめのうえお受け取りください。記載内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
日付の記入が無い場合は、お買い上げの領収書を取扱説明書と一緒に保管してください。

2. 修理を依頼されるとき

取扱説明書の「⑨故障かな?と思ったら」(16ページ)を参照して調べてください。
それでも直らないときは、販売店にご連絡ください。

■保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。保証書の記載内容に基づき無償で修理いたします。
《連絡していただきたい内容》
●品名、品番
●製造番号(コントロールボックスの下部の銘板に表示しています。)
●お買い上げ日
●故障または異常の内容(できるだけ詳しく)
●施設名、お名前、ご住所、電話番号

■保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店にご相談ください。修理できる製品については、ご要望により有償で修理いたします。

3. アフターサービスについてご不明な場合

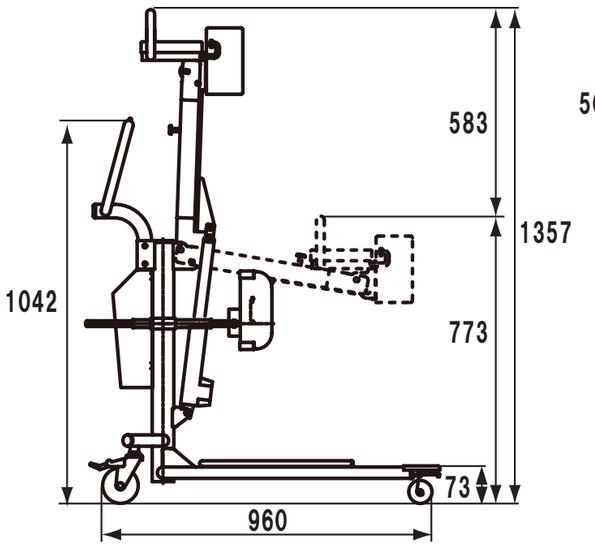
お買い上げの販売店、または弊社にご相談ください。

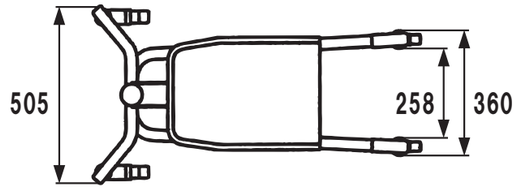
13 仕様

電　　源	定格電圧 定格周波数 定格消費電力 (無負荷停止時) 充電装置	交流100V 50/60Hz 6VA以内(満充電時) 充電装置内蔵
バッテリー	形式個数 定格容量 (20時間率)	小型シール鉛蓄電池　12VDC ／ 2.9Ah ／ 2個 2.9Ah
モーター	形　式 定格電圧 連続使用時 昇降時間 (無負荷時) 最大持上力 最大電流値	リニアアクチュエーター LA31 DC24V Duty 10% 約50秒 6000N 5A
コントロール	制御部 制作部 (リモコン) ヒューズ	16ビットマイコン 上昇／下降スイッチ 7A
キャスター　前輪 　　後輪 材　　質　フレーム 重　　量		φ50mm キャスター φ100mm キャスター(ストッパー付) スチール製 37kg

製品の改善・改良のため仕様を予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

●寸法図





昇降アーム最低時(握りバー上端)	773
昇降アーム最高時(握りバー上端)	1357
ストローク	583
操作ハンドル上端	1042
走行フレーム高さ(前輪部)	73
走行フレーム長さ	960
走行フレーム外寸(前輪部)	360
走行フレーム外寸(後輪部)	500
走行フレーム内寸(前輪部)	258